

# 年次報告書

シャンティ国際ボランティア会

アフガニスタンでの活動開始から20年。  
絶望感から立ち上がり、選んだ一歩は事業継続

本力を、  
生きる力に。



シャンティ国際  
ボランティア会  
Shanti Volunteer Assoc.



## ミラー刺繍

東西が合わさって豊かな文化が育まれたアフガニスタン。数ある刺繍の種類のひとつ、ミラー刺繍は小さくカットした鏡を糸でかがって布に縫い付けます。このミラーは「魔を跳ね返す」お守りとして子どもや女性の衣服などに好んで用いられています。



# アフガニスタンでの活動開始から20年。

2001年の米国同時多発テロを機に「テロとの戦い」の最前線となったアフガニスタンで、シャンティはすぐに緊急人道支援事業を開始し、今から20年前となる2003年には、ジャララバードにアフガニスタン事務所を開設。図書館活動や学校建設などの教育文化支援事業に着手しました。

それまでアジアを主な活動地としていたシャンティにとって、アフガニスタンでの活動は設立以来最大の挑戦でもありました。度重なる紛争で治安が悪化し、学校に行くことができない子どもが数多くいる現実を前に、アフガニスタンと共に歩むことを決めました。

## 取り組み

活動20年に際し、2023年はこれまでの活動を振り返るイベントの開催や、広報誌『SHANTI』で特集を組みました。また、子ども図書館の活動を紹介する映像を制作しました。



映像はこちらからご覧いただけます

## ごあいさつ

日ごろシャンティの活動を温かく見守ってくださる皆さまに、国内外での活動にひとかたならぬご支援を賜っておりますこと、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化するに伴い、シャンティは隣国ポーランドの首都ワルシャワに事務所を置き、地元のNGOと協力しながら、生活再建に必要な知識の習得、ならびに社会交流の機会を提供する場づくりを行っています。こうした状況下で忘れてはならないのが子どもたちの心のケアです。平和な暮らしから一転し、現在と将来にまで不安を抱える心の痛みは、計り知れません。シャンティはこれまでに培った子どもたちへの支援経験を最大限生かして活動していきます。

次々と頻発する紛争などにより世界の耳目が移ろい、あらゆる困難にある人々が忘れ去られようとしていることに危機感を覚えています。それは支援の手が届かなくなることを意味しているからです。私たちが目指すのは、一人ひとりが尊厳ある生き方ができる地球市民社会の構築です。困難に直面している人々を置いて去るということは、活動理念に背くことになりかねません。

今後とも、途上国の子どもたちへの教育文化支援を軸としながら、自然災害被災者支援、各地の紛争による社会的弱者の救援にも迅速に対応できるよう活動してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会長 若林恭英



## 2023年のトピックス

### 「絵本を届ける運動」翻訳絵本作製セットをリニューアル

アジア各国へ翻訳絵本を送る「絵本を届ける運動」の絵本セットが、おとなから子どもまでアジアの言葉とくらしを楽しく学べる内容になりました。

「絵本を届ける運動」に申し込んでいただくと、絵本のほか「翻訳シール」や「あいさとお表」など、必要なものがまとまった絵本セットがお手元に届きます。今回のリニューアルでは、この絵本セットに

「参加のしおり」を新たに追加。「参加のしおり」はつくり方だけでなく、絵本を届ける先の言葉とくらしを学ぶことができる内容です。



### 英国のオッケンデン国際賞（難民・避難民のための事業部門）を受賞

70年以上にわたり難民支援活動に携わる英国のオッケンデンインターナショナルが2012年に立ち上げた賞で、毎年、難民や避難民の自立や生活の改善に取り組んでいる団体を表彰しています。2023年は、過去最多の169件の申請があり、シャンティを含め4団体が同賞を受賞しました。

タイ国境沿いの7つの難民キャンプにある15のコミュニティ図書館が、難民によって自主的に運営されていることを高く評価されました。また、文字や情報へのアクセ

スは、難民の自立につながることから、ITリテラシーを強化するためのコンピュータや、カレン語、ビルマ語、英語の書籍を提供していることが評価されました。「この活動は、難民・避難民の自立した学習とアイデンティティ、身近な生活以外の世界に対する多文化的な視点を育むのに非常に重要だと考えます」と審査員からコメントをいただきました。



### 中期事業計画と中間評価

- 1. 専門性を高め、新たな海外事業を展開します**
- ・ シャンティが継続して取り組んできた絵本やおはなしの読み聞かせを軸とした読書推進、ライフスキル教育を強化し、新たな海外事業を展開します。
  - ・ 図書館活動のノウハウのパッケージ化、ノンフォーマル教育分野での活用
  - ・ 国内外の緊急人道支援における図書館活動
  - ・ アジア以外での緊急人道支援、新しい国・地域における活動の展開

- ※ 2021年：読書推進、ライフスキルを含む子どもの教育の専門性を高めるため、教育事業のリソースの体系化、ノンフォーマル教育に寄与する図書館活動のマニュアル作成、教育事業に関わる職員向け勉強会を行いました。
- ※ 2022年：ロシアによるウクライナ侵襲を受け、ウクライナとポーランドにおける緊急支援事業を開始しました。また、前年に続き、教育事業リソースの体系化や勉強会を開催しました。
- ※ 2023年：トルコ南東部地震において学習スペースの運営、子供が抱える学習面・心理面の悩みに寄り添う事業を、アフガニスタン西部地震においては被災者への移動図書館活動を実施しました。タイ国境の移民学校を対象に事業形成を行いました。

- 2. 日本国内での新規事業を推進します**
- ・ シャンティが培ってきたアジアでの経験と学び、つながりを活かし、日本における子どもの貧困、外国ルーツの子どもたちが抱える課題を解決するため、日本国内での事業を推進します。

- ※ 2020年：国内事業として、外国ルーツの子どもたちを対象とした居場所づくり事業を開始しました。
- ※ 2021年：外国ルーツの子どもたちの家族を含めた東京都豊島区で在留外国人を対象に、継続するコロナ禍における包括的生活安定支援事業を開始しました。
- ※ 2022年：日本国内の宗教施設を対象に3つの柱(防災減災を考える宗教施設の交流と研修・防災減災モデル宗教施設の能力強化・横断的な宗教施設の防災減災ネットワーク形成)を軸とした防災減災推進事業を開始しました。
- ※ 2023年：2021年から実施している在留外国人への包括支援は、外国ルーツの子どもの居場所づくり事業の一環として2023年3月に公益事業として認定されました。

- 3. 政策提言、パートナーシップを強化します**
- ・ 子どもの権利条約第28条・29条「教育の目的」達成に寄与することを目指し、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを強化します。
  - ・ 読書推進を行う企業、団体との連携強化
  - ・ 専門家とともに事業や活動成果の検証、効果測定、調査研究の結果公表
  - ・ 活動地における教育政策の改善に寄与する提言書の作成
  - ・ 市民が気軽に参加できる「絵本を届ける運動」ワークショップの推進、市民とのコミュニケーション強化

- ※ 2022年：ネパールにおいて、教育科学技術省と共同主催で、公共・コミュニティ図書館全国会議を開催し、図書館振興のための法整備や予算措置などの10項目を掲げた「カトマンズ宣言」が採択されました。
- ※ 2023年JANICジェンダー平等推進ワーキンググループにコメンターとして参加し、ジェンダー主流化について研修会の実施に向けた準備などの活動に関わっています。

- 4. 組織の国際化を目指します**
- ・ 日本生まれのNGOとしてさらに事業を推進していくために、人材育成や多様な働き方の導入など、組織基盤を強化します。
  - ・ 組織基盤の強化
  - ・ 職員の能力開発、次世代リーダーの育成
  - ・ 国を越えた国際職員の配置
  - ・ 多様な働き方に柔軟に対応できる制度の整備
  - ・ 国内外での認知向上、多様な財源の確保

- ※ 2019年：次世代リーダー育成のため、各事務所から職員が来日し、東京事務所の職員とともに研修を行いました。
- ※ 2021年：団体設立40周年を契機に広報資料やウェブサイトのリニューアルを行いました。組織基盤強化では団体規程の刷新、運営現地化方針の見直しを行いました。
- ※ 2022年：改訂された運営現地化方針に沿って、海外事務所でも人材育成計画を策定しました。海外を含む全事務所職員を対象としてセルフゲーディングや教育事業に関わるオンライン研修会を実施しました。
- ※ 2022年：事務業務に関わる新たなシステムを積極的に導入し、マニュアル化するなどの対応を進めました。
- ※ 2023年：多様な働き方に柔軟に対応できるよう、職員就業規則、給与規定、育児介護休業規程、コンプライアンス・倫理規定などを改訂しました。



### アフガニスタンでの活動開始から20年。絶望感から立ち上がり、選んだ一歩は事業継続

シャンティのアフガニスタンでの活動は、2001年に起こった同時多発テロ後のアフガニスタン空爆後に、食料配布を中心とした緊急救援を実施したことに始まります。私が初めてアフガニスタンの地を踏んだのは2002年、そこから事務所設立にも携わりました。

2003年のアフガニスタン事務所設立以降、学校や図書館を数多く建設し、子ども図書館利用者数は60万人を超え、少しずつ復興を実感していた矢先、2021年8月に政変が起こりました。積み重ねてきたものが崩れ落ちるような感覚を必死に耐えながら、どうにか事業を継続するための道筋に向かって2022年の12月、暫定政権は女性の大学など高等教育と、現地NGOおよび国際NGOなどにおける女性の就労を禁止



外事務所と密にコミュニケーションできていたものの、数年ぶりの対面での意見交換でぐっと距離が近づいたように感じました。ここ数年取り組んできた運営現地化もあいまって、事業が着実に進み、成果が出ていると実感できました。

その一方で、貧困層の生活は各地で厳しさを増しています。コロナ禍で一般化したように見えるオンライン授業も、貧困層が多い地域では設備がなく受けることができません。学年に見合った学力が身につけていない、といった新たな課題に対しても向き合っていく必要があります。

### これまででもこれからも変わらない支援の軸。絵本でつながり、広がっていく世界を子どもたちに

緊急人道支援の出動と並行して変わらずに取り組んでいる教育文化支援は、活動国の政策決定にまで関われるようになるなど、課題解決に向けてこれまでの蓄積をよりいかせるようになっていくと感じます。シャンティが設立当初から変わらずに教育文化支援の軸としているのが、絵本から広がる図書館活動です。

代表的な取り組みのひとつである、日本の絵本に現地の言葉に翻訳したシールを貼った“翻訳絵本”を届ける「絵本を届ける運動」は、日本にいながらできる国際協力として多くの方に支えられ、2024年に25年を迎えます。宗教や国境関係なく、同じ本を楽しんでいる遠い誰かの存在を知ることが、気づかぬうちに分断が生まれる昨今の世界で、より重要になってくるのではないかと思います。本でつながり、広がっていく世界がそこにはあります。刻々と変化する世の中の課題に対して、絵本が果たす役割を社会に示していければと考えています。



移民学校の子どもたちへの緊急物資支援



「絵本を届ける運動」ワークショップの様子

したのです。絶望感に襲われ、「撤退」の2文字が現実的な選択肢として頭に浮かびました。

しかし、活動開始20年を機に、これまでのアフガニスタンにおける取り組みを関係各所と振り返り、これからについて議論したことで、事業継続に向けた想いを再確認できました。2023年10月に発生した大きな地震に加え、アフガニスタンの食料危機は飢餓一歩手前の状態だといわれています。国際社会からの支援はまったく足りていません。これからも支援を止めないために、シャンティにできることを議論し続けたいと思います。

### 各地で起こった人道危機。新たに顕在化した課題にも向き合う

世界に目を向けると、2023年も人道危機が数多く起こり、深刻化したように感じます。内戦や紛争に加え、地震や洪水などの災害も国内外で発生しました。シャンティの活動地であるミャンマーの情勢も不安定な状態が続いており、武力衝突は止まず、タイ側に逃げてくる難民は増加しています。その数は数万規模とも言われていますが、正確に把握することは難しく、さらに彼らは難民として公式に認められていないため支援の手が届かないのが現状です。

せめて子どもたちには安全な教育を受けさせたいというおとなたちの想いから、ミャンマー人のための移民学校に通う生徒数は増えており、教室や学生寮はすし詰め状態です。そんな状況を前に、シャンティにできることは何かを検討し、移民学校を支援する事業が新たに立ち上がりました。国際社会としても、難民と認定されていない人たちをあらゆる方面から支援していく方向で、シャンティがこの課題に対して動く決めたのは2023年のひとつの成果と言えます。

また、2023年5月、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更され、私もラオスやネパールの活動地に久しぶりに赴きました。コロナ禍に進めたIT整備の結果、日ごろから海

# 人道危機により新たに顕在化した課題に向き合う。

国内外で発生した内戦や紛争、地震や洪水などの災害。人道危機が数多く起こり、解決すべき課題は多層化と深刻化の一途を辿っているように感じます。設立当初から変わらない図書館活動を軸とした取り組みと並行し、新たに見えてきた課題と向き合いながら進んできた一年を振り返ります。



事務局長 山本 英里

シャンティは40年以上、アジアの8つの地域で活動を行ってきました。国や地域の社会状況により必要な支援は異なります。専門性を持った職員が活動地に滞在し、継続的な支援を行っています。現地の人々と共に、学びの文化を育てています。

## これまでの支援活動実績 (2023年末まで)

### 実績1 学ぶための本や活動

	2023年	通算
絵本・紙芝居出版	15タイトル	678タイトル
届けた絵本	19,483冊	400,720冊
図書館利用者	326,183人	1,681万人



### 実績3 安心して学べる場所

	2023年	通算
学校建設	14校	456校
図書館・図書室設置	10館・室	1,063館・室



### 実績2 学びを届ける人

	2023年	通算
研修参加者	132回 / 5,086人	1,388回 / 59,962人



### 実績4 緊急人道支援

	2023年	通算
緊急救援出動回数	15回 ・海外14回 ・国内1回	108回 ・海外75回 ・国内33回

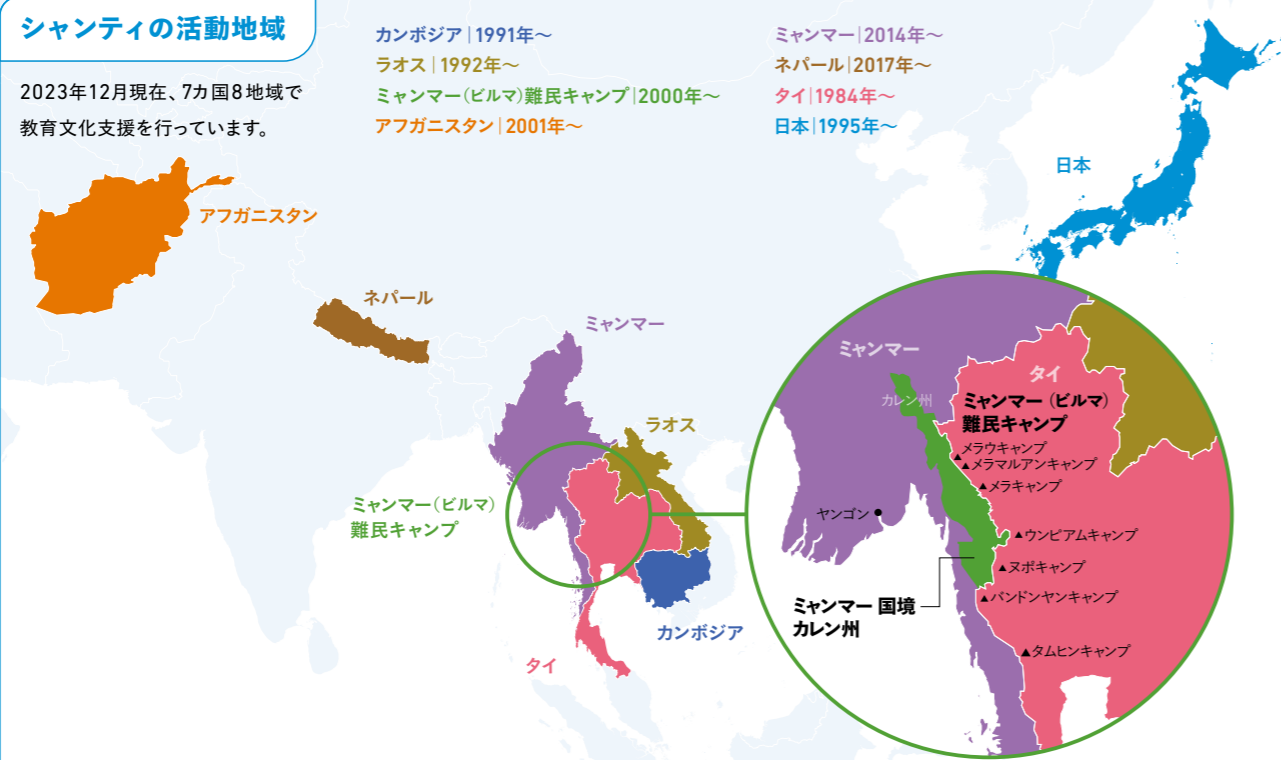


## シャンティの活動地域

2023年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援を行っています。

カンボジア | 1991年～  
ラオス | 1992年～  
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～  
アフガニスタン | 2001年～

ミャンマー | 2014年～  
ネパール | 2017年～  
タイ | 1984年～  
日本 | 1995年～



# タイ

## スラム、移民・少数民族居住地域で教育支援

5月に議会下院総選挙が行われ、9月には2014年以來の民政復帰となる新政権が発足しました。

2006年の軍事クーデター以降、約17年にわたり続いていたタクシン派と反タクシン派の対立を背景とする政治的混乱が節目を迎えました。

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着きを見せており、2023年は通常どおりに活動を実施できました。



### 実績

図書館活動参加者:  
5,246人  
奨学金支給者:  
367人



### 事業

#### 1. 教育の機会改善事業

- 2023年は、中高生合計347人(バンコク33人、パヤオ県133人、ターク県181人)と大学生20人の合計367人に奨学金を授与しました。
- 奨学生の選定のため、2月に対象3地域にて職員による家庭訪問を実施しました。
- 前期奨学金授与式を6月に、後期奨学金授与式を11月にバンコク、パヤオ県、ターク県の3カ所で開催しました。

#### 2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- バンコクのスラム地区、バンコク郊外のサムットサーコーン県とサムットプラカーン県の25カ所にて計68回の活動を行い、4,845人の子どもと401人の教員が参加しました。
- バンコクのスラム地区とサムットサーコーン県マハーチャイ地区の教員を対象とした絵本の読み聞かせ方の講習会および工作のワークショップを各1回実施し、計36人が参加しました。

活動先の1つであるマハーチャイ地区のワットシリモンコン学校に、学校図書館を設置しました。同校以外の生徒である周辺校に通う児童や近隣住民も利用できるよう開放し、地区内の読書推進に取り組みました。



シーカー・アジア財団の職員

\*タイでの活動は、シャンティの元タイ事務所、現在は現地法人のシーカー・アジア財団(SAF)が行っています。シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。

### 事務局長メッセージ

シーカー・アジア財団  
事務局長  
ナリラット・  
ターンジャンルンバムルンスック



新型コロナウイルスの新規感染者数が4月中旬以降、急激に増加しましたが幸いにも子どもたちは1年を通して学校へ通うことができました。

私たちが事業を実施している都市スラム、移民労働者および少数民族居住地域で暮らす人々は依然として困難な状況に置かれています。コロナ禍、物価高、エネルギー価格高騰の影響は貧困層世帯に重くのしかかり、教育の機会損失の要因となっています。

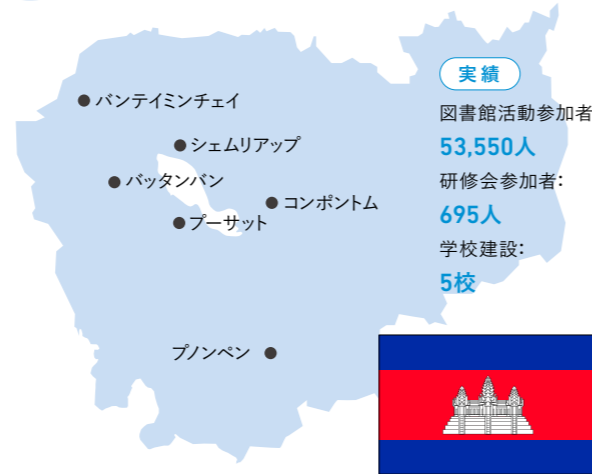
また、ミャンマーの情勢悪化に伴うタイ国内への避難民・移民の数は増加傾向にあり、移動図書館活動の実施先の学校の中には、待機児童を100人近く抱えている学校もあります。教室、教員、資金が不足しており、一刻も早い状況改善が求められています。

# Cambodia

## カンボジア

### 質の高い教育への取り組みと、見えてきた成果

新政権が誕生したカンボジアでは、政府主導で教育の質の改善に向けた取り組みがなされています。カンボジア事務所では、幼児教育事業内で開発していたガイドブックが教育省に公式副教材として承認され、コミュニティ学習センターが生涯学習センターに認められるなどの成果が見られました。拡大する国内教育格差の是正、より質の高い教育の実現に向けて、活動を継続します。



#### 事業

##### 1. 幼児教育の質の改善

- 3種類の教員用ガイドブックが完成し、教育省から公式副教材として承認されました。
- 対象幼稚園51園の教員に向けて現職教員研修を実施しました。
- 日本の幼児教育専門家による現地技術指導を2回実施したほか、訪日研修を実施しました。
- ガイドブック内容の全国普及に向け、4州7園の中央幼稚園に対し、家具や教材を提供しました。

##### 2. 僻地小学校のための補習推進事業

- プーサット州の2校に学習施設を建設しました。施設内の自習室では教育省開発のデジタル教材を活用した補習授業が開始され、施設内図書館に2校合計1,800冊の図書が配架しました。
- 対象校にて、デジタル教材活用研修、自習室運営研修、図書室運営管理及び読書推進研修を行いました。

##### 3. コミュニティ学習センター（CLC）運営支援

- 教育省によるCLC運営評価が行われ、評価対

象となったバンテイミンチェイ州のCLC2館が、生涯学習センター(LLC)に昇格しました。

- CLC運営委員会と図書館員を対象に生涯学習政策の説明会を行い、CLCサービスの提供と図書館運営のフォローアップを行いました。
- 移動図書館活動を計6回行い、計406人が参加しました。

##### 4. 学校建設

・バタンバン州とプーサット州の3校に新校舎を建設し、教壇や黒板などの学校備品を配備しました。対象校にて学校敷地利用計画図作成研修、校舎維持管理・衛生啓発研修を行い、学校教員や地域住民が参加しました。



カンボジア事務所職員

#### 所長メッセージ

カンボジア事務所  
所長  
菊池 礼乃



38年ぶりに交代した新首相の下、新たな国家開発戦略が発表され、教育分野では、質の向上が掲げられています。教育改革が進むことが期待される一方、農村部や僻地では、依然として学習環境や教員の質、保護者の参画などに課題が見られています。

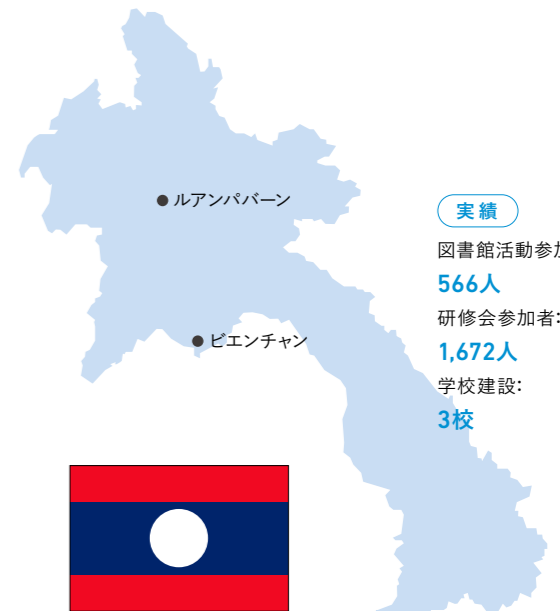
2023年は、幼児教育の質の改善、学校建設、補習推進、コミュニティ学習センター(CLC)運営支援に取り組み、一定の成果が出ています。特に、幼児教育事業では、開発したガイドブックが教育省より公式副教材として承認され、今後全土に普及していく予定です。また、CLC運営支援は2023年で終了となりますが、同省による評価の結果、2館のCLCが生涯学習センターに昇格しました。カンボジア事務所では、これからも困難な状況にある子どもたちに、教育の機会を届け、教育の質を改善していく活動を継続していきます。

# Laos

## ラオス

### 児童が本を読みたくするような環境作りを目指して

教育スポーツ省は、初等教育カリキュラムを改定し、その普及を目指した教員研修を実施しています。これにより、子どもたちの学習改善が期待されます。ラオス事務所では、ラオス北部ルアンパバーン県を中心に少数民族の子どもたちに対して、学校建設活動、移動図書館活動を継続的に実施しました。学校衛生環境改善事業(WASH)も開始し、児童が衛生環境について学ぶ機会を提供しています。



#### 事業

##### 1. 学校建設

- 2021年に建設した小学校3校の竣工1年後検査を行いました。
- 2022年に建設した小学校3校の施工50%検査および100%検査を行い、同3校にて、施設の維持管理および衛生研修を実施しました。
- 2023年の支援校を選定するためのデータ収集および学校状況調査を実施しました。

##### 2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- 5つの対象校に対して、絵本805冊(63タイトル)、紙芝居35冊(7タイトル)を配布しました。
- 5つの対象校に対して移動図書館活動を実施し、合計423人の児童と26人の教員が参加しました。また、計900冊の図書が貸し出されました。
- 読書推進および読み聞かせ研修を実施し、合計25名の教員と村落教育開発委員会委員が参加しました。
- 対象地域の民話を題材にした紙芝居を合計130冊(1タイトル)出版しました。

##### 3. 学校衛生環境改善事業(WASH)

- 学校の衛生管理および維持に関する衛生研修を10月から12月にかけて、ルアンパバーン県ルアンパバーン郡とポンサイ郡の13校を対象に実施しました。研修には66人の教師、391人の地域住民、1,181人の児童が参加しました。
- 対象校に対してトイレ、水道、手洗い場などの水衛生施設を導入・設置しました。これにより、児童は手洗い習慣を身につけるとともに、清潔なトイレを使用することができるようになり、対象校の衛生環境が大幅に改善されました。



ラオス事務所職員

#### 所長メッセージ

ラオス事務所  
所長  
加瀬 貴



コロナ禍の3年間で失われた子どもたちの学びを取りもどすことは一朝一夕ではできません。ポストコロナの今、これまで以上に子どもたちに対する「質の高い学びの提供」が求められています。特に、少数民族の子どもたちの教育状況はコロナ禍以前から課題が多く、より深刻な状況となっています。ラオス事務所がこれまで実施してきた読書推進や指導能力改善、そして今年度新たに実施した衛生環境の改善事業で得た教訓やノウハウを生かしながら、今後少数民族をはじめとする子どもたちにより広く教育の機会を届ける活動を、現地の人々に寄り添いながら実施してまいります。

ラオス事務所の運営については、現地職員が副所長に着任するなど、現地主体の運営化をより一層進めました。現地職員がラオスの「今」のニーズとしっかりと向き合いながら主体的に支援活動を実施し、効果的に支援していくことを目指しています。

# Afghanistan

## アフガニスタン

### 20年間の経験を糧に、学びの希望を子どもたちへ

2021年8月に起きた政変は、依然としてアフガニスタンの教育や人々の生活に大きな影響を与えています。

中学生以上の女子の教育は未だ再開されていません。

また、深刻な食料危機により、人々の生活は困窮を極めています。

事務所を設立してから20年間、さまざまな困難に立ち向かい支援を継続してきました。これからも、子どもたちの希望が絶えないよう安心して学べる空間を届けてまいります。

#### 実績

絵本・紙芝居出版：  
3タイトル 5,200冊  
図書館活動参加者：  
71,410人  
研修会参加者：  
613人  
図書館・図書室設置：  
2館

ラグマン ● ●クナール  
カブール ● ●ナンガハル



#### 事業

##### 1. 子どものための

##### 図書館普及にむけた基盤整備事業

・ラグマン市のモデル学校図書館とジャララバード市の子ども図書館が竣工しました。カブール市のモデル学校図書館は6,719人の児童・生徒が利用し、貸出図書数は1,086冊でした。ジャララバード市の学校図書館は3万6,323人の生徒が利用し、貸出図書数は6,542冊でした。  
・2022年に完成した学校図書館ガイドブックを用いて、竣工した図書館の図書館員、小学校教員、校長向けの研修を実施しました。

##### 2. 子ども図書館の運営

・ジャララバード市の子ども図書館は254日間の開館中、4万1,159人(うち29.9%は国内避難民や孤児、障がい児など)の子どもが利用しました。  
・読書推進のためのイベントを5回開催し、参加者は865人でした。政変以降、女子を中心とした不学児の利用が増えています。

##### 3. 絵本・紙芝居出版

絵本2タイトル4,800冊(ダリ語、パシュト語)と紙芝居1タイトル400冊(ダリ語、パシュト語)を出版し、学校図書館や公共の図書館に配架しました。

##### 4. クナール県における子どもの教育へのアクセス向上事業

・2022年に設置した500カ所のコミュニティベースの教室に、学習キットが配布された1万5,000人(うち63%は女子)の子どもが通学しました。  
・500人の教員を対象に心理社会研修とセーフガーディング研修を行いました。  
・対象地においてバック・トゥ・スクールキャンペーンとコミュニティ談話を実施しました。

#### 所長メッセージ

事務局長 兼  
アフガニスタン事務所 所長  
山本 英里



2023年は暫定政権の新方針により、国際NGOによる教育支援の実施が大きく制限され、シャンティは、コミュニティベース教室の活動を現地NGOに委ねました。全国で教育支援に必要とされる資金は半分にも満たず、教育分野は深刻な状況が続いています。特に中等教育以上の女子のための学校は閉鎖から1,000日以上が経過し、一日も早い教育の再開が必要となっています。また、一部の地域では「壊滅的」な食料不安が続いており、飢餓が懸念されています。10月には、西部ヘラート県でM 6.3の大地震が発生し、1,000人以上が亡くなりましたが、その9割が女性・子どもだと報告されています。

厳しい状況が続くアフガニスタンですが、日本から届く支援が人々、子どもたちにとって明日への希望の光となっています。困難な状況が続きますが、子どもたちに笑顔届けられるよう緊急支援、教育支援を継続していきます。

# Myanmar

## ミャンマー

### 長引く非常事態にも学校という日常を

2021年の非常事態以降、全土で戦闘が続き、人々の暮らしは

厳しさを増しています。教育面では、学校が再開された

地域もある一方で、治安悪化により学校閉鎖が続く地域もあります。

シャンティでは約2年にわたり

学習機会を失った子どもたちの復学を支援するため、

学校校舎建設や授業に活用できる絵本や

紙芝居の出版、学習教材の提供を行いました。

●ビー  
ヤンゴン ● ●バアン

#### 実績

絵本・紙芝居出版：  
5タイトル 1,130冊  
図書館活動参加者：  
5,092人  
研修会参加者：  
167人  
図書館・図書室設置：  
6館  
学校建設：  
6校



#### 事業

##### 1. 校舎・学校図書館建設

・西バゴー地域およびカレン州にて、復学した児童が増加し校舎が不足した公立学校6校へ、学校図書館を含む学校校舎6棟を建設しました。建設中のモニタリングや建設後の自主管理ができるようにするため、対象校の教員や学校運営委員会に対し、能力強化研修や施設維持管理研修を開催し、合計97人が参加しました。  
・児童図書出版委員会と協力し、学習教材として活用できる絵本3タイトル、紙芝居2タイトルを出版しました。絵本や紙芝居のテーマは色、衛生、友情、季節など多岐にわたります。また、対象校の教員と授業で活用できる図書について話し合い、教員らのニーズに基づきミャンマー、タイ、日本から調達した絵本685冊と紙芝居8部を各校へ配布しました。これらの絵本は道徳や理科、芸術などの授業で活用されています。

利用者数の記録方法を伝えました。研修後は、学校図書館が開館され、教員による読み聞かせなどの図書館活動が行われているほか、ブックトークやポップアップカードを利用し、読書を促す取り組みも行われています。



ミャンマー事務所職員

・新たに設置した学校図書館を地域全体で運営、活用できるように、対象校の教員へ学校図書館研修を開催し、合計70人が参加しました。研修では図書の分類方法や読み聞かせ方法、

#### 所長メッセージ

ミャンマー事務所  
所長  
中原 亜紀



2021年2月の政変以降、戦闘地域が拡大し多くの避難民が発生、国内情勢は悪化の一途をたどっています。こうした中、教育支援と合わせ、緊急人道支援にも取り組んできましたがアクセスの難しさなどに直面しました。将来が見通せないため、国外に出る若者も増加しました。学校では教員不足により教育の質の低下が課題になっていますが、支援した学校図書館では先生たちが力を合わせ、読み聞かせなどの活動を行っている様子に光が見えました。絵本出版活動に携わる関係者からは、子どもたちのために良質な図書をつくりたい、力を貸してほしいとの声がありました。

2024年は、ミャンマーで事務所を開業し、教育事業を開始して10年を迎えます。厳しい状況が続きますが、子どもたちを守り、学びが届けられるように尽力している人々と共にこれまで培ってきた経験を生かしながら、教育活動を継続していきます。

# Myanmar (Burma)

## ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

### 人々の不安に寄り添う場所として図書館を継続

ミャンマーでの政変は難民キャンプやミャンマー・タイ国境地域にも影響を与えています。母国へ帰る希望を失った人々は

将来への不安が増しているほか、新たにタイへ逃れた人々の支援も喫緊の課題です。こうした状況を受け、第三国定住の再開に向けた準備が開始されました。難民キャンプを取り巻く環境が大きく変わる中、シャンティは心の安らぎや情報を得られる場として図書館の運営を継続しました。

#### 実績

図書館活動参加者：  
209,394人  
研修会参加者：  
133人  
絵本・紙芝居出版：  
1タイトル(2言語)  
2,000冊



#### 事業

##### 1. コミュニティ図書館運営

- タイ国内の難民キャンプにおいて、コミュニティ図書館の運営を支援し、2023年の年間利用者数は7キャンプ15館全体で20万9,394人(子ども14万2,414人、大人6万6,980人)でした。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、2022年よりも利用者が増加しました。
- 図書館15館に、大人用書籍1万5冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本6,367冊(カレン語、ビルマ語)、参考書2,025冊を配架しました。
- 絵本1タイトル2,000冊(カレン語、ビルマ語)を出版し、図書館に配架しました。難民キャンプの人々が自分たちの伝統文化、生活、慣習を思い出し、世代から世代へと受け継いでいくことができるようにと開始した絵本出版は、本タイトルで100タイトル目を数えました。
- キャンプ内の学校やキャンプ内で活動する団体、合計128組織に、移動図書館を使って本を貸し出しました。
- 7キャンプで、図書館員や図書館青年ボランティアに対して、読み聞かせ方法やお遊戯の手法を学ぶ研修を開催し、133人が参加しました。

- 7キャンプで四半期会議や年次会議を開催し、図書館関係者間で活動計画や活動内容、課題を共有し、サービスの向上に努めました。また、会議に合わせて各館の読み聞かせのスキルやレクリエーションなどを共有する活動も実施しました。
- 老朽化した図書館の屋根や扉、フェンス、トイレなどの修繕を行いました。
- 図書館の掲示板やパソコンを通して、ミャンマー情勢や第三国定住に関する情報などを図書館の利用者に向けて提供しました。



ミャンマー(ビルマ) 難民事業事務所職員

#### 副所長メッセージ

ミャンマー(ビルマ) 難民事業事務所  
副所長  
ジラポーン・ラウィルン(セイラー)



ミャンマー国内の政情不安により、国内避難民の発生やタイへの避難民の流入が引き起こされました。タイ側での多くの援助機関やNGOは、こうした避難民の流入に対応するために最善を尽くしていますが、子ども、女性や高齢者など、特別なケアを必要とする脆弱層へは十分な支援が届いていません。また、保護、安全、教育の課題も残っています。

難民キャンプ内での先の見えない生活への不安から、多くの難民が強いストレスや悩みを抱えており、精神的な問題を抱える人が増えています。また、若者のアルコール依存や薬物の使用も頻繁に報告されていますが、解決策を見出すことは非常に難しい状況です。

難民キャンプ内での図書館活動と並行して、タイ側で支援を必要としているミャンマーの子どもたちの保護や読書機会の提供にも力を尽くしていきたいと思っています。

# Nepal

## ネパール

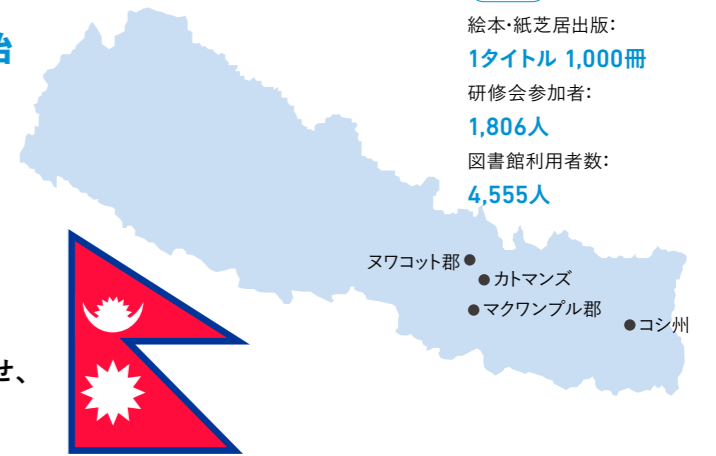
### 「働きたい」若者と女性を支援する新事業の開始

2023年、教育基本法の改正に向けた議論が開始しました。

近年、教育へのアクセスは大幅に改善されたものの、その質が課題とされ、中途退学率や若者・女性の失業率の高さが問題となっています。シャンティは2020年に開始した教育の質を改善する3つの事業を完了しました。そのうちの1つ、コミュニティ図書館能力強化事業をさらに発展させ、若者と女性の就労状況の改善を目指す新事業を開始しました。

#### 実績

絵本・紙芝居出版：  
1タイトル 1,000冊  
研修会参加者：  
1,806人  
図書館利用者数：  
4,555人



#### 事業

##### 1. コミュニティ図書館能力強化事業

2022年に建設した3館で、読書推進活動や読み聞かせ、女性のエンパワメント研修、ITスキル研修など、各種の図書館サービスと学習プログラムを提供しました。本事業は2月で完了し、支援した4館の1月と2月の利用者数は4,555人でした。

##### 2. 先住民族地域における地域学習の カリキュラムの開発・普及事業

先住民族であるチュバンやタマンの人々が多く暮らすマクワンブル郡の自治体で、地域について学ぶ地域学習の科目の普及を目指し、2月の事業完了に向け、関係者との会合や地域学習の推進に向けた全国会議を行いました。終了時調査では、本事業で制作した地域学習の教科書が教員に活用されていることが確認され、子どもたちや保護者やコミュニティの人々へも良い影響があるという声が多く集まりました。

##### 3. 国連世界食糧計画(WFP)と連携した 「学校給食改善事業(栄養教育活動)」

保護者を対象とした栄養・衛生啓発活動のオリ

エンターションを331回実施し、6,675人が参加しました。教員に対し、これまでに実施した栄養・衛生教育研修を振り返るリフレッシュ研修を行い、合計839人が参加しました。本事業はヌワコット郡で実施し、11月に完了しました。

##### 4. コミュニティ図書館を通じた職業・ 技術スキル開発事業

コミュニティ図書館能力強化事業での知見を礎に、3月からコシ州で新事業を開始しました。若者や女性が就労や就職に必要なスキルを学ぶことができる図書館・リソースセンター1館の建設を開始し、センターの運営委員会を設立、メンバーへの研修を行いました。



ネパール事務所職員

#### 所長メッセージ

ネパール事務所  
所長  
萩原 宏子



ネパールでは2023年、コミュニティ図書館能力強化事業、地域学習カリキュラムの開発・普及事業と学校給食改善事業を完了しました。少数民族の文化や地域性を反映した地域学習の教科書は地域の人々に愛され、現在も継続的に活用されています。

学校給食改善事業では、多くの学校で地域の食材を利用したあたたかい給食が提供されるようになったほか、学校給食や健康的な生活習慣の大切さについて理解が深まりました。

3月からは、コミュニティ図書館能力強化事業の後継事業として、識字教室や職業スキル研修を提供する図書館・リソースセンターを3館設立する新事業を開始しました。「事業を通じて地域の状況を改善したい」という地域の方々の熱意には圧倒されるものがあり、私自身いつも励まされます。2024年も地域に根差した事業を実施していきたいと思っています。

# Japan

日本

## 在留外国人支援と防災減災活動を展開

日本に在留する外国人は約322万人（2023年6月末、出入国在留管理庁調べ）となり、過去最高を記録しました。2023年は法改正もあり、外国人受け入れに関する転機を迎えています、十分な受け入れ体制は整っていません。また、頻発する国内災害に対して地域資源を見直した防災減災活動の重要性が増しています。外国人支援、防災減災活動のどちらにおいても、地域の関係団体と連携し、課題解決のための活動を推進します。

### 実績

外国ルーツの子どもの居場所づくり

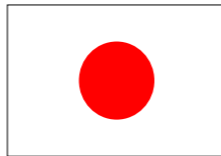
回数:25回

参加者:103人

外国人支援フードパントリー・相談会

回数:11回

参加者:334人



### 国内事業

#### 1. 外国ルーツの子どもの居場所づくり

外国ルーツの子どもの居場所づくり活動を、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークと協働で25回実施し、103人の子どもが参加しました。事業開始から3年半が経過し、今後の運営のあり方について連携団体、運営スタッフと協議を行いました。10月からは、連携団体とこれまで活動に参画した運営スタッフによる自主的な運営体制に移行しました。

#### 2. 外国人の包括的支援事業

2023年3月に公益事業として認定されました。これにより、喫緊の課題である共生社会の実現に向けて外国ルーツ住民のサポートの幅が広がります。豊島区各地で外国人向けフードパントリー・相談会を11回開催し、334名に対して食料配布と相談対応を行いました。相談会においてニーズが高いとされた重点課題に対しては、解決に向けたセミナー・支援イベントを開催しています。これまで、厚生労働省と連携した「しごと探しセミナー」(2023年2月)、「公営住宅申請サポート会」(同年5月、6月)、「特定技能セミナー・相談会」(同年12月)を実施しました。

### 国内緊急人道支援活動

#### 1. 防災減災事業

「宗教施設を活用した防災減災推進事業」を継続しました。①防災減災を考える宗教施設の交流と研修、②防災減災モデル宗教施設的能力強化、③横断的な宗教施設の防災減災ネットワーク形成の3本柱の活動を中心に、本分野の専門家のサポートをいただきながら啓蒙を進めました。

#### 2. 福島事業

福島県南相馬市で福島大学災害ボランティアセンター(災ボラ)と共同事業を行っています。学生が主体となり、地元の方との郷土食文化教室、復興公営住宅における交流活動を実施しました。

### 課長メッセージ

国内事業課  
課長  
鈴木 晶子



在留する外国人の数は2023年に過去最高を記録し、さまざまな法制度も成立しています。6月には、外国人の収容のあり方を見直す改正入管法が成立、同月には在留資格「特定技能2号」の対象業種を拡大する方針が閣議決定されました。12月には「補完的保護」制度が施行されましたが対象者の選定、制度の中身に関しては課題が残されています。

一方、日本で暮らす在留外国人が抱える課題は就労、教育、住居、医療など多様です。困窮した外国人を包括的に支援する体制は整っておらず、適切な支援につながるできない状況があります。私たちはこれからも弁護士、社会福祉協議会、外国ルーツのコーディネーターとともに包括的な支援に取り組んでいきます。

また、度重なる自然災害に対しては、発災後の支援に加え、日ごろからの防災・減災の取り組みが求められています。他機関と連携した取り組みを継続します。

# 緊急人道支援

災害や紛争発生直後の緊急期において、生活するために必要な生活物資を配布します。また、子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。長期の避難生活においても基本的な人権を守るため、国際基準に則った活動を行っています。

## 海外での活動

### ミャンマー

#### 国内避難民を中心とする子どもへの教育支援活動およびサイクロン・モカ被災者に対する緊急食料配布

2021年の政変以降、社会の混乱により1,300万人以上の子どもがさまざまな形で教育上の悪影響を受ける中、コミュニティに支えられている僧院学校などに通う子どもを対象に、生活必需品や学用品の配布および仮設教室の設置事業を実施しています。また、2023年5月に発生したサイクロン・モカにより被災した人々を対象に、ラカイン州とチン州において緊急食料配布を実施しました。



設置した仮設学習室の様子



配布した物資

### アフガニスタン

#### 生活困窮者に対する緊急食糧配布事業および越冬支援

国民の半数以上が人道支援に依存していると言われていたアフガニスタンにおいて、3月から9月まで、カブール県450世帯、クナール県700世帯の生活困窮者を対象として緊急の食料配布などを実施しました。また8月からヌーリスタン県・クナール県において緊急食料配布および越冬支援のための毛布などの配布を行っています。



配布前の戸別訪問



物資配布会場の様子

### パキスタン

#### 洪水の被災者に対する生活必需品配布および学校教育必需品の配布

2022年6月に発生した洪水の被害を受けた被災者に対して、継続して事業を実施し、3月に745世帯を対象に食料・生活必需品を配布しました。その後、さらなるニーズに対応するため、追加で300世帯への食料・生活必需品の配布・小学校9校(1,653人)への学校教育必需品の配布を実施しました。7月に事業が完了し、現在は活動を終了しています。



学用品セットを受け取る子どもたち

### トルコ

ハタイ県の被災した子どもを対象にした教育支援 2月に発生した地震により特に甚大な被害を受けたトルコ南東部ハタイ県において、コンテナを活用した学習スペースを運営するほか、子どもが抱える学習面・心理面の悩みに寄り添う相談支援を10月から7か月間の予定で実施しています。



学習スペースで勉強する子どもたち

### ウクライナ

#### 国内避難民に対する生活再建支援および生活必需品配布

2022年から継続して支援を実施している中部のポルタヴァ州に加えて、南部のザポリージャ州を対象として、国内避難民に対する就職支援・ストレスマネジメントのための講座の開催と食料・衛生用品などの生活必需品の配布を実施しています。



ビザ職人講座の様子

### ポーランド

#### カミエナ・ゴウラ郡における社会統合促進事業

ロシアによる軍事侵攻以降、積極的にウクライナ避難民の支援を続ける隣国ポーランドにおいて、既存の公共施設を改修して、避難民がホストコミュニティとともに教育・文化学習活動に参加できる態勢を整えました。また、さまざまな支援情報をまとめて得られる社会統合センターの開設を目指した事業を実施しています。



織物ワークショップの様子

## 日本での活動

### 2023年7月豪雨(秋田市での支援活動)

深刻な被害が発生した秋田県秋田市において7月20日に初動調査を開始し、8月1日より緊急人道支援事業を開始しました。技術系ボランティア団体と支援が必要な世帯をつなぐ役割を担ったほか、被災した保育園への蔵書・備品整備支援、笑顔の時間をつくるべく「復興チャリティ寄席」を4回実施しました。



水害の被害を受けたお宅にて



## 絵本を届ける運動 Campaign to Deliver Picture Books

日本の絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、ジャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る作業は、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に活動開始して2024年で25周年となります。

### 国際協力活動を知るきっかけとして

**19,483冊の翻訳絵本をアジアの子どもたちへ**  
「絵本を届ける運動」を通して集めた翻訳絵本は、ジャンティが支援する活動地の子どもたちのもとに届けられます。これまでにこの運動を通して届けた絵本は40万冊を超えました。2023年度は、カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー、タイ国境ミャンマー(ビルマ)難民キャンプへ、クメール語、ラオス語、パシュトー語、ビルマ語、カレン語に翻訳した絵本、合わせて35タイトル・1万9,483冊を届けることができました。

### 言葉と文化を学べる絵本セット

翻訳絵本の制作に必要な絵本、「翻訳シール」、「あいうえお表」のほかに新たに「参加のしおり」を追加しました。「参加のしおり」は、アジア地域への理解を深め、より身近に感じられるように、つくり方だけでなく、翻訳絵本を届ける先の言葉と暮らしを、現地の文字や言葉の使い方と一緒に紹介しています。

### 広がる国際協力活動の輪

2023年度は1万7,882人の個人、423組の企業・団体に参加いただきました。2023年は自宅だけでなく学校や職場で集まってボランティア活動を行う機会も増え、翻訳絵本づくりワークショップを33回開催しました。参加された方からは「国際協力が身近になった」「届ける地域の状況についても知ることができて良かった」といった声をいただきました。

### 実績

参加数 **19,483**冊  
1,238件  
タイトル数 **35**タイトル  
出版社数 **18**社

2024年の  
ラインナップは  
こちら▶



絵本を手にした子どもたち

## CRAFT AID クラフトエイド [フェアトレード事業]

アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手作した商品を販売するジャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を大事にしたものづくりを行い、日本の皆さまにご紹介しています。

### つくり手たちの想いをのせて

#### つくり手の将来のために

2023年度は、カンボジア、タイ、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー、日本の合計10団体の生産者団体のつくり手と一緒にものづくりを行いました。クラフトエイドのものづくりを支えるつくり手たちが暮らす東南アジア各国でも手間と時間がかかる伝統的な手仕事は、海外からの安価な輸入製品におされ、年々つくり手の数も減少しています。一方で、新しい挑戦としてデジタル技術を活用することで後継者を増やし育てる取り組みも生まれました。また、日本国内の福祉施設とタイのスラムの女性たちによるコラボレーションバッグを製作し、日本と海外のつくり手をつなぐ企画を立ち上げることができました。クラフトエイドでは、つくり手が自身の技術に自信を持ち、これからも継続してものづくりを行っていきける社会を目指していきます。

#### つくり手を身近に感じる活動

個人通販では638件、店舗買取では62件の注文をいただきました。イベント会場での販売機会も再開し、47カ所の会場でクラフトエイドの商品を販売しました。新しくつくり手の紹介冊子を製作し、商品を購入いただいたお客さまを中心に通販やイベント会場で配布を行っています。また、SNS発信やオンラインストアでのコラム掲載などを通して、つくり手とお客さまの顔が見える関係を目指していきます。

### 実績

取扱 **34**店  
期間限定販売 **62**回  
ご支援数 **879**件

つくり手たちの  
手仕事を  
ご覧ください▶



アフガン・ピースベア



アフガン・ピースベアつくり手

## アジアの図書館サポーター [継続的なご寄付による支援]

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にご支援いただくプログラムです。皆さまのご支援が子どもたちの生きる力を育みます。

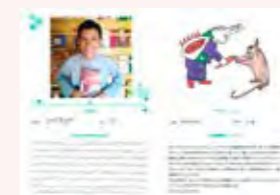
### 子どもたちの希望をつなぐ

2023年は新たに183名がサポーターに参加され、2023年12月末時点で2,375名に継続寄付のご支援をいただいています。サポーターの輪を広げるために、ウェブページのリニューアルを行い、SNSでの発信を継続しています。全国の公共図書館に設置したパンフレットからも、引き続き多くご参加いただきました。また、活動地の子どもたちからの写真付きメッセージカードをお届けしました。子どもたちの言葉からは図書館で学ぶことが希望になっていることが伝わってきます。「図書館が大好きで、多くのことをここで学び、私のすべてが変わりました」「この図書館がなければ、私は本を読む機会を得られなかったです」「図書館にいる間に多くのことを学んで、家に帰ると妹たちやお母さんに学んだことを全部教えています」。教育を受ける機会が限られている子どもたちにとって、図書館は仕事や家の手伝いから離れて学ぶことができる大切な場所です。活動国を限定しないアジアの図書館サポーターの皆さまからのご支援は、図書館や移動図書館活動の運営・整備、図書館員の育成など子どもたちが教育を受ける機会を守るために大切に活用しています。

### 実績

新規サポーター **183**名

ご寄付に関する情報は  
こちら▶



メッセージカード

### メディア掲載 |

**アフガニスタンやウクライナ支援を中心に**  
新聞、雑誌、ラジオなど116媒体で掲載されました。内訳は、新聞92、雑誌13、そのほかラジオ、ネットメディアなど11媒体です。アフガニスタンやトルコ南東部地震の緊急人道支援などに関し、現地の様子や活動の状況を取材いただきました。また、ジャンティの各活動地の出版絵本を12週にわたって取り上げる連載企画が新聞掲載されました。

掲載先(一部):朝日新聞/読売新聞/毎日新聞/東京新聞/産経新聞/中日日報/仏教タイムス/文化時報/クーリエ・ジャポン など

### イベント開催 |

#### ハイブリッドイベントの増加

イベントを17回開催し、941人に参加いただきました。対面とオンライン両方での開催が増え

## もので寄付するプロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

### 「もの」が教育の機会に変わります

2023年は、ご参加いただいた方から送っていただいたお品物により510万2,947円の募金になりました。本・CD・ゲームソフトによるご寄付が、昨年よりも337件増えました。これは、企業との連携により一部書店に設置している古本の回収ボックスによる寄付の増加によるものです。ご送付いただきましたお品物によるご寄付は、アジアの子どもたちへ教育の機会をつくる活動に大切に使用しています。

### 実績

本・CD・ゲームソフト	<b>908</b> 件	合計 <b>1,407</b> 件 総額 <b>5,102,947</b> 円
商品券・金券、書き損じはがき、それ以外の家に眠るお宝	<b>499</b> 件	

### 回収品の例

本・CD・ゲームソフト	●書籍 ●コミック ●CD ●DVD/Blu-ray ●ゲームソフト、ゲーム機
商品券・金券	●全国共通商品券 ●ビール券/お米券 ●図書券/図書カード ●書き損じはがき ●未使用の切手/はがき

それ以外の家に眠るお宝	●金・プラチナ・貴金属・宝石 ●ブランド品(バッグ・食器・時計) ●古銭・古紙幣/金貨・貨幣 ●カメラ・レンズ ●楽器(ギター、管楽器)など
-------------	--



回収品の例



箱詰め

### 実績

メディア掲載 **116**媒体

イベント開催 **17**回/  
**941**人

講演 **93**回/  
**8,371**人

した。アフガニスタン事務所が設立20年を迎えたことを受け、6月には来日した現地事務所職員が登壇し、女子教育の現状や現地の声を伝えました。また、12月のジャンティの設立記念日には、現地の関係者をオンラインでつなぎ、アフガニスタンに関わる専門家を招いて、女性たちの置かれた状況を考えるイベントを開催しました。当日の様子はジャンティのYouTubeチャンネルからご覧いただけます。

**講演 | 多様な場でワークショップ・講演を実施**  
93回、8,371名の方に向けて講演を行いました。学校からは18件、企業からは19件のご依頼をいただきました。また、曹洞宗の梅花大会を中心に寺院関連では28件ありました。対面でのイベント実施が可能となったこともあり、全国の自治体や図書館から広く一般の方に向けたワークショップや講演依頼を多くいただきました。

## ご支援・ご協力・連携実績

2023年も、個人、団体からのご寄付に加えて、教育環境改善のための連携事業を実施しました。さまざまなご支援・ご協力を通して多くのみなさまに活動を支えていただいています。

### ご支援・ご協力 (掲載数字: 2023年1月～12月)

#### アジアの図書館サポーター (ATS)

新規申込	183人
合計	2,375人 *2023年12月末時点

#### 寄付

個人からの寄付	6,402人 / 193,873,792円
団体からの寄付	1,755団体 / 227,546,557円

#### 事務所ボランティア

絵本を届ける運動	18人
クラフトエイド	2人

#### インターンシップ

広報・リレーションズ課	6人 (内、東洋大学国際学部より2人、 鶴見大学文学部より2人)
地球市民事業課	1人
事業サポート課	2人

#### プロボノ・協力者

aurinco(アウリンコ)さん  
 岩崎 将之さん  
 木村 沙弥香さん  
 きよはら えみこさん  
 シュルツ八坂由美さん  
 安井 浩美さん  
 江藤 孝治さん  
 高橋 明日香さん  
 三上 悠里さん  
 沼田 智美さん  
 川畑 嘉文さん  
 保田 卓也さん  
 和田 元さん

### 事業連携

#### 外務省「日本NGO連携無償資金協力」

##### ネパール

- 被災地、先住民族地域における教育の質の改善事業
- コミュニティに根差した職業・技術スキル開発を通じた若者・女性の就労支援事業

##### アフガニスタン

- 子どものための図書館普及にむけた基盤整備事業

##### ミャンマー

- ミャンマー西バゴー地域およびカレン州における学習環境改善事業

##### カンボジア

- カンボジア国僻地小学校のための補習推進事業

##### ラオス

- ラオス国ルアンパバーン県における学校衛生環境改善事業

##### ポーランド

- カミエナ・ゴーラ郡における社会統合促進事業

#### 国際協力機構 (JICA) 「草の根技術協力事業」

##### カンボジア

- 幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通じた学び」実践のための基盤構築事業 (草の根パートナー型)

#### ジャパン・プラットフォーム (JPF)

##### アフガニスタン

- クナール県における生活困窮者に対する緊急食糧配布事業
- カブル県郊外における食糧・衛生用品の配布事業
- ヌーリスタン県における生活困窮者に対する緊急食糧配布事業
- クナール県における食糧・生活必需品配布による越冬支援事業

##### パキスタン

- ハイバル・パフトゥンハー州における食糧・生活必需品配布事業
- ハイバル・パフトゥンハー州における食糧・生活必需品及び学校教育必需品の配布事業

##### ミャンマー

- 西バゴー地域およびカレン州における僧院学校を対象とした食糧および衛生用品配布事業
- チン州及びシャン州における国内避難民を中心とする脆弱層の子どもへの教育支援活動
- ラカイン州及びチン州における被災者に対する緊急食糧配布事業

##### ウクライナ

- ウクライナ人道危機の影響を受けた被災者を対象とした食糧・生活必需品の配布および教育支援事業
- ウクライナ国内の避難民に対する生活再建支援および食糧・生活必需品配布事業

##### トルコ

- ハタイ県の被災した子どもを対象にした教育支援

#### 国連世界食糧計画 (WFP)

##### ネパール

- ヌワコット郡における学校給食計画

#### 国連児童基金 (UNICEF)

##### アフガニスタン

- クナール県における子どもの教育へのアクセス向上事業

#### 後援

##### 「絵本を届ける運動」「アジアの図書館サポーター」

- 文部科学省
- 公益社団法人 日本図書館協会
- 公益社団法人 読書推進運動協議会

# シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動を続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

### シャンティの理念

## 共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

#### 使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会を目指します。

#### 目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

### 子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。そのためには「1. 学ぶための本や教材」、「2. 学びを届ける人」、「3. 安心して学べる場所」、そして「4. 学びと出会うための活動」が欠かせません。



### 2030年までの達成を目指す「持続可能な開発目標 (SDGs)」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標



## 組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

### 顧問

足立 房夫	一般社団法人協力隊を育てる会 顧問
阿部 豊淳	宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺 貫主 特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝	荒川区職員労働組合 顧問 特定非営利活動法人日本ラオス子どもの未来 理事長
笹岡 賢司	静岡県・龍谷寺 住職
三部 義道	もがみ地産地消エネルギー代表 山形県・松林寺住職
早坂 文明	宮城県・徳本寺住職

### 参与

服部 秀世	曹洞宗 宗務総長
小林 昌道	大本山永平寺 監院
渡辺 啓司	大本山總持寺 監院

### 理事・監事

会長	若林 恭英	安楽友の会 代表、長野県・安楽寺 前住職
副会長	茅野 俊幸	公益財団法人庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職
副会長	秦 辰也	近畿大学国際学部 教授 (2024年3月末現在)
専務理事	岡本 和幸	上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職
常務理事	有馬 嗣朗	あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職
常務理事	神津 佳子子	株式会社KOZUstyle 代表取締役
常務理事	松永 寛道	静岡県・宗徳院 住職
理事	浅野 幸子	早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
理事	伊藤 弘泰	EARTH LABEL Inc. CEO EQIQ株式会社 取締役
理事	佐藤 真美	一般社団法人Earth Company 日本事務局長
理事	関根 隆紀	埼玉県・光秀寺 住職
理事	東海 泰典	シャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職
理事	直井 里子	国際ファッション専門職大学 専任講師 京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師
理事	八木澤 克昌	シーカー・アジア財団 アドバイザー
理事	山本 英里	シャンティ国際ボランティア会 事務局長
理事	横澤 敬雄	長野県・東昌寺 住職
理事	横山 俊顕	曹洞宗総合研究センター 講師、福島県・安洞院 住職
監事	中山 雅之	国士館大学大学院グローバルアジア研究科 教授
監事	野中 茂	公認会計士 (野中公認会計士事務所)

### 専門アドバイザー

天野 教之	天野医院 院長
大菅 俊幸	曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子	かまくらさちこ株式会社 代表取締役
高田 博嗣	NHKグローバルメディアサービス 経営企画室 企画部長
手束 耕治	カンボジア宗教省仏教研究所 顧問
藤谷 健	朝日新聞社東京本社デジタル機動報道部長 兼 ジャーナリスト学校デジタル推進担当部長
三宅 隆史	立教大学文学部 特任教授

### 国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年)  
ソロブチミスト日本財団賞(1985年)  
外務大臣賞(1988年)  
毎日国際交流賞(1994年)  
東京都豊島区感謝状(1995年)  
防災担当大臣賞(2004年)  
兵庫県知事感謝状(2005年)  
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)  
宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)  
ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)  
スポーツ庁長官感謝状(2019年)  
第14回かめのり賞 特別賞(2020年)  
第28回読売国際協力賞(2021年)  
第25回地球倫理推進賞(2021年)  
文部科学大臣賞(2021年)  
オッケンデン国際賞(難民・避難民のための事業部門)(2023年)

### 参加ネットワーク一覧

#### 国内

SDGs市民社会ネットワーク／ NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)[世話人・安全基準管理委員]／  
NGO外務省定期協議会／ NGO-JICA協議会／  
NGOと企業の連携推進ネットワーク／ NGO-労働組合国際協働フォーラム／  
NGO非戦ネット[呼びかけ人]／市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCIS)／  
開発教育協会(DEAR)[理事]／紙芝居文化推進協議会／カンボジア市民フォーラム[世話人]／  
教育協力NGOネットワーク(JNNE)[事務局長]／国際協力NGOセンター(JANIC)／  
シーズ・市民活動を支える制度をつくる会／ジャパン・プラットフォーム(JPF)／  
多文化としまネットワーク／地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)／  
震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)／東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)[副代表]／  
東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議[幹事団体]／  
日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)／日本NPOセンター／日本図書館協会／  
日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)／庭野平和財団[理事]／  
防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)／東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)／  
仏教NGOネットワーク(BNN)[副理事長、事務局長]／曹洞宗SDGs推進委員会／  
世界宗教者平和会議(WCRP)／全日本仏教会[支援検討委員]／  
アフガニスタン避難者受け入れコンソーシアム／ JANIC・アフガニスタンワーキンググループ／  
一般社団法人災害サポート東京(CS東京)[理事]

#### 海外

##### カンボジア

Cooperation Committee for Cambodia(CCC)／  
Japanese NGO Worker's Network in Cambodia(JNNC)／  
NGO Education Partnership(NEP)

##### ラオス

International NGO Network (INN)／Japanese NGO Meeting(JANM)

##### ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand  
(CCSDPT: 難民支援事業調整委員会)

##### アフガニスタン

Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)

##### ミャンマー

Japan NGOs Network - Myanmar(JNN-Myanmar)／ INGO Forum

##### ネパール

Association of International NGOs in Nepal(AIN)

##### 全体

Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education (ASPBAE)[理事]／  
The Asia Disaster Reduction & Response Network (ADRNRN)／ Global Book Alliance

## 組織図

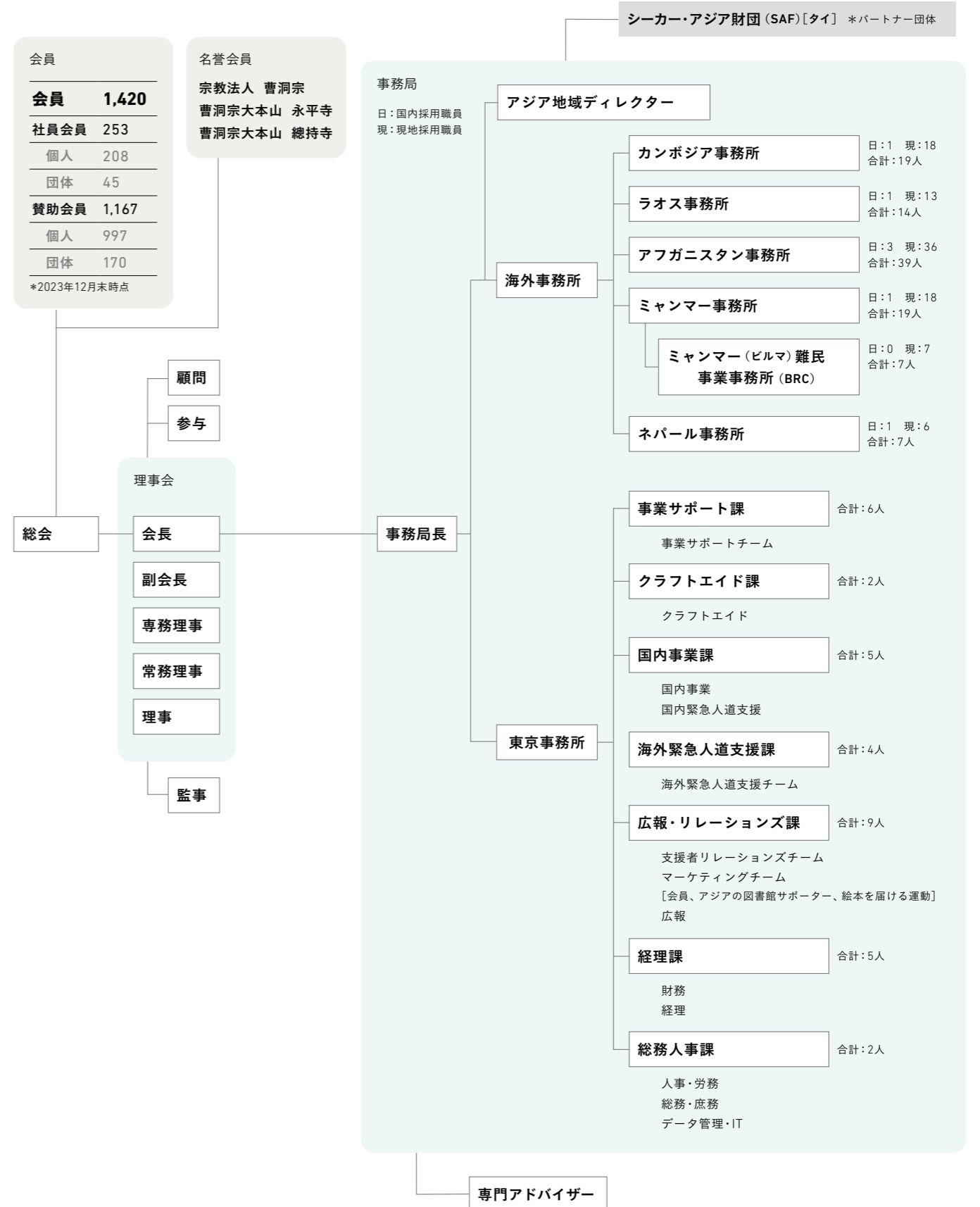
事務局員 138人

(SAF、インターン含まず)

国内採用職員 40人

現地採用職員 98人

\*2024年4月1日時点



貸借対照表 2023年12月31日現在

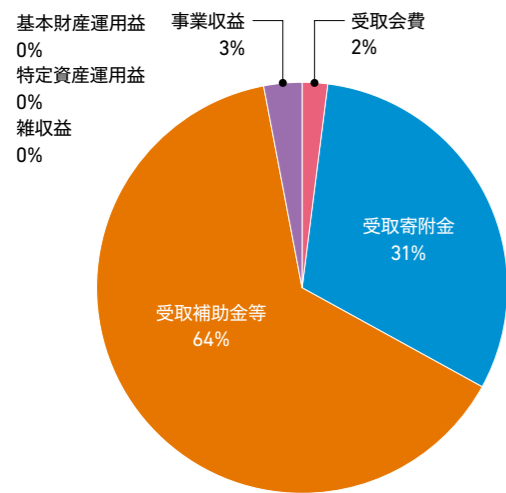
資産の部 (単位:円)	
1. 流動資産 (現預金等)	185,334,431
2. 固定資産	
(1) 基本財産	50,000,000
(2) 特定資産 (特定預金等)	746,811,664
(3) その他固定資産 (固定資産物品等)	9,616,185
固定資産合計	806,427,849
資産合計	991,762,280

負債の部	
1. 流動負債 (預り金等)	30,950,936
2. 固定負債 (退給引当金等)	88,992,635
負債合計	119,943,571

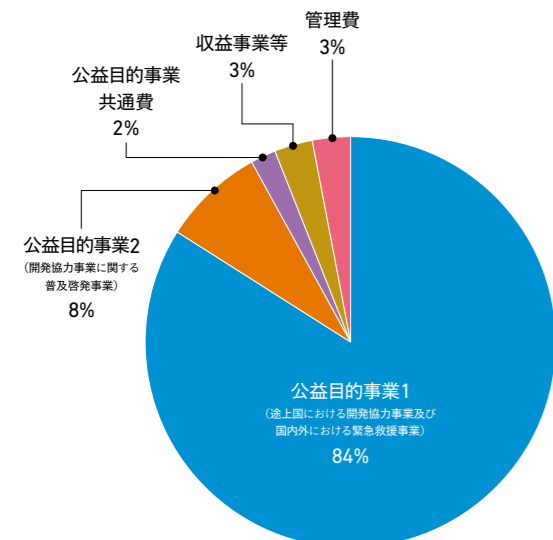
正味財産の部	
1. 指定正味財産	749,333,703
2. 一般正味財産	122,485,006
正味財産合計	871,818,709

負債及び正味財産合計	991,762,280
------------	-------------

収益



費用

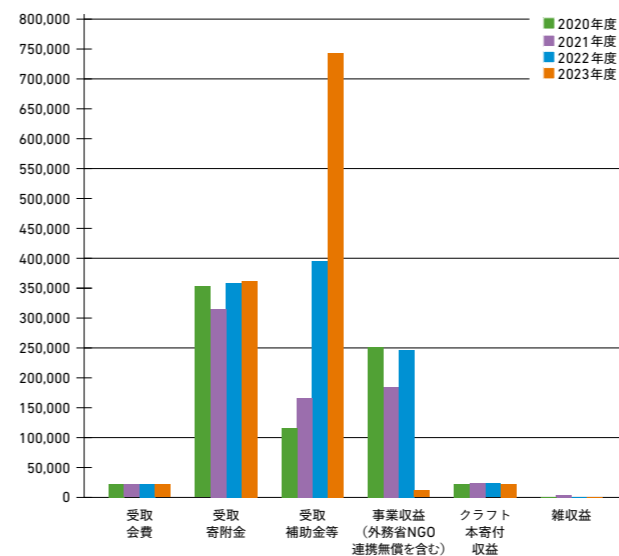


正味財産増減計算書 2023年1月1日から2023年12月31日まで

一般正味財産の部 (単位:円)	
経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	5,303
受取会費	21,052,000
受取寄附金	362,584,562
受取補助金等	743,502,415
事業収益 (クラフトを含む)	33,843,628
雑収益	1,239,187
経常収益計	1,162,324,595
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業)	
タイ事業費	8,637,975
カンボジア事業費	103,751,546
ラオス事業費	31,162,327
アフガニスタン事業費	373,744,581
ミャンマー事業費	104,446,984
ネパール事業費	90,364,063
緊急救援事業費	163,571,720
東日本大震災復興支援事業費	3,587,540
海外事業支援費	56,593,228
公益目的事業1 合計	935,859,964
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	38,754,973
広報事業費	38,784,397
国内事業費	15,494,705
公益目的事業2 合計	93,034,075
公益目的事業共通事業費	21,023,302
公益目的事業合計	1,049,917,341
収益事業等	
クラフトエイド事業費	24,077,445
本で寄付するプロジェクト事業費	7,623,597
収益事業等合計	31,701,042
管理費合計	36,152,337
経常費用計	1,117,770,720
評価損益等調整前当期経常増減額	44,553,875
評価損益等計	0
当期経常増減額	44,553,875
経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用計	5,096,631
当期経常外増減額	△ 5,096,631
税引前当期一般正味財産増減額	39,457,244
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	39,387,244
一般正味財産期首残高	83,097,762
一般正味財産期末残高	122,485,006
指定正味財産増減の部 (単位:円)	
受取補助金等	354,784,705
N連事業収益	257,661,803
受取寄附金	178,224,829
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	5,303
一般正味財産への振替額	△ 645,501,417
補助金返還金	△ 23,609,956
当期指定正味財産増減額	121,662,767
指定正味財産期首残高	627,670,936
指定正味財産期末残高	749,333,703
正味財産期末残高	871,818,709

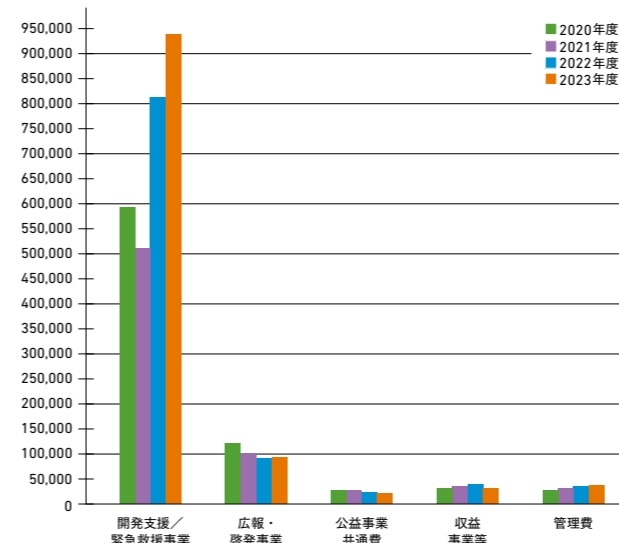
年度別収益推移表 (一般正味財産)

収益	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
受取会費	22,903	21,457	21,909	21,052
受取寄附金 (2023年度から外務省NGO連携無償を含む)	351,997	314,606	358,062	362,585
受取補助金等	115,607	165,503	395,915	743,502
事業収益 (2022年度まで外務省NGO連携無償を含む)	250,762	184,684	246,655	11,623
クラフト本寄付収益	22,548	24,372	23,217	22,221
雑収益	1,324	3,363	1,157	1,239
合計	765,141	713,985	1,046,915	1,162,222



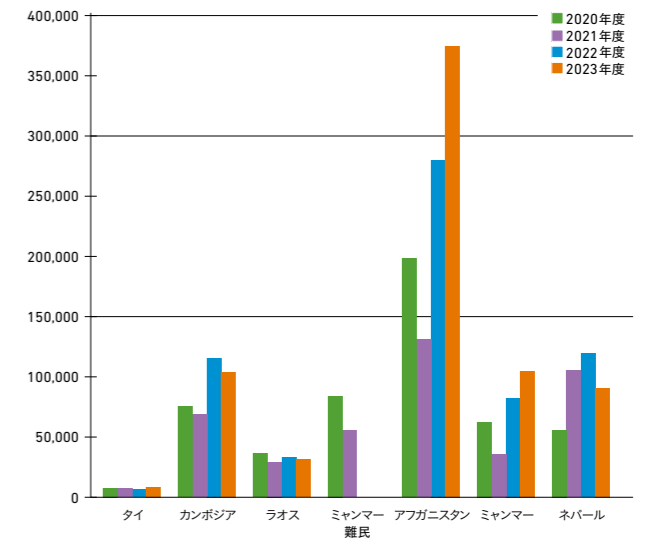
年度別費用推移表

費用	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
開発支援/緊急救援事業	590,569	509,453	809,802	935,860
広報・啓発事業	119,904	100,514	91,464	93,034
公益事業共通費	26,754	26,354	23,662	21,023
収益事業等	31,364	35,085	37,935	31,701
管理費	25,894	31,600	35,449	36,152



年度別開発支援事業費推移表

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
タイ	7,719	7,421	6,615	8,638
カンボジア	75,063	68,546	115,549	103,752
ラオス	36,441	29,235	32,907	31,162
ミャンマー難民	83,919	55,404	0	0
アフガニスタン	197,646	130,529	279,229	373,745
ミャンマー	62,377	35,306	82,442	104,447
ネパール事業費	55,646	104,993	119,108	90,364



\*ミャンマー難民キャンプ支援事業は2022年度よりミャンマー事業内で行うこととなった

独立監査人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益 (正味財産増減) の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2024年2月21日

田中義幸公認会計士事務所

東京都新宿区

公認会計士

田中義幸

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



ここには  
 表紙で紹介  
 したバッグと子  
 どもたちの練習  
 作品が並んでいま  
 す。シャンティが運営  
 する子ども図書館で開  
 催している縫製・刺繍教室  
 は、10歳前後の女子が毎日  
 参加しています。外出制限や社  
 会活動の制限が課せられているアフ  
 ガニスタンの女性にとって縫製・刺繍  
 は、自宅で収入を得る貴重な手段です。



本文写真中の絵本 『いろ』作・絵：いもとようこ、出版社：金の星社 | 『おおきなかぶ』再話：A・トルストイ、訳：内田 莉紗子、画：佐藤 忠良、出版社：福音館書店 | 『ひまわり』文・絵：荒井真紀、出版社：金の星社 | 『ボールのまじゅつしウィリー』作：アンソニー・ブラウン、訳：久山 太市、出版社：評論社 | 『ポリぶくろ、1まい、すてた』作：ミランダ・ポール、絵：エリザベス・ズノン、出版社：さ・え・ら書房 | 『この計画はひみつです』文：ジョナ・ウィンター、絵：ジャネット・ウィンター、訳：さくま ゆみこ、出版社：鈴木出版 | 『おおきくなるっていいこと』作：中川 ひろたか、絵：村上 康成、出版社：童心社 | 『ちいさなちいさな めにみえない びせいぶつの せかい』文：ニコラ・デビス、絵：エミリー・サットン、訳：越智 典子、監修：出川 洋介、出版社：ゴブリン書房 | 『ねんね』作・絵：さえぐさ ひろこ、出版社：アリス館 | 『へいわって どんなこと?』作：浜田桂子、出版社：童心社 | 『みずたまレンズ』作：今森 光彦、出版社：福音館書店 | 『フロレンス・ナイチンゲール』作：デミ、訳：さくま ゆみこ、出版社：光村教育図書 | 『ぞうくんのさんぽ』作・絵：なかの ひろたか、レタリング：なかの まさたか、出版社：福音館書店 | 『わたしのワンピース』著者：西巻茅子、出版社：こくま社 | 『はらぺこあむし』作：エリック＝カール、訳：もりひさし、出版社：偕成社 | 『くりとぐら』さく：中川李枝子、え：大村百合子、出版社：福音館書店 | 『ぐるんばのようちえん』さく：西内ミナミ、え：堀内誠一、出版社：福音館書店 | 『風をつかまえたウィリアム』ウィリアム・カムクワン・ブライアン・ミラー、絵：エリザベス・ズノン 訳：さくまゆみこ、出版社：さ・え・ら書房